

令和 5 年 5 月 7 日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2022

課題番号：17K03078

研究課題名（和文）歴史学の成り立ちをめぐる基礎的研究 京都史学史の視座から

研究課題名（英文）Fundamental Research on the Formation of Historical Studies: From the Perspective of Kyoto Historical Studies

研究代表者

小林 丈広 (Kobayashi, Takehiro)

同志社大学・文学部・教授

研究者番号：60467397

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、歴史学の営みとして社会と密接な関係にある自治体史や地域資料館の活動を中心に据え、その学問的意義の検討を通じて、歴史学をはじめとする諸学問の可能性を検証しようとするものである。自治体史や地域資料館は、市民と身近な関係にあるため、多くの市民から批判も含めたさまざまな意見を受けることが多く、その影響を受けやすい環境にある。また、厳しい財政状況を背景とする多くの自治体においては、市民の立場に立って継続的に仕事を遂行することが難しい場合もある。本研究では、京都市を中心にその実態を把握するとともに、周辺自治体との比較検討を進め、その意義をより広い立場から検討したものである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、それ以前に共同研究の成果として公刊していた『京都における歴史学の誕生』を踏まえ、そこから洩れていた視点も含めて、あらためてその経緯を検討することで、より広い意味で学問の社会的意義を検討した。具体的には、考古学や史料保存学など、歴史学の中でも独自の発展を遂げてきた学問分野の知見も取り入れ、前述の研究成果を再検討した。また、前述の研究成果が京都市に即したものであったのに対し、近隣自治体との比較の視点を積極的に取り入れ、より立体的にその意義を明らかにしようとした。

研究成果の概要（英文）： This research focuses on the history of local governments and the activities of local museums, which are closely related to society as part of historical studies, and Since local government histories and local museums have a close relationship with citizens, they often receive various opinions, including criticism, from many citizens, and are in an environment that is easily influenced by them. In addition, many local governments facing severe financial conditions may be forced to make decisions such as reviewing or canceling projects. There is also In this study, we grasped the actual situation centering on Kyoto City, promoted comparative examination with surrounding municipalities, and examined the significance from a broader standpoint.

研究分野：歴史学

キーワード：地域史 史料保存 日本史 アーカイブ 共同研究 地域研究

1. 研究開始当初の背景

2014年、2006年に京都市内外の地域資料館や自治体史の現場で働く研究者有志で始めた京都歴史研究会が研究成果として『京都における歴史学の誕生』を出版した。同書は明治維新以降現在までの間に京都を中心に展開された歴史学的な営みを取り上げ、その歴史的な意義を検討したものである。幸い、同書についてはその後いくつかの書評や新刊紹介がなされ、中央の学界を中心とする従来の史学史とは異なり、ひとつの地域に即した史学史であり、これまでにはなかった試みとして一定の評価を得ることができた。

その後、研究会のメンバーの置かれた立場は変化したものの、それぞれの問題意識は引き続き持続し、それを持ち寄りながら意見交換を進めた。その結果、研究の対象を京都市だけでなく近隣自治体にも広げながら、研究会を継続した。また、研究活動を同志社大学人文科学研究所の部門研究に位置づけるなど、研究基盤を強化して研究会を定例化し、ゲスト講師を積極的に招くなど、より広い視野から、歴史学や文化財保護行政、史料保存活動の現状に迫ることができるよう試みた。

本研究は、そうした取り組みの過程で、研究対象となるフィールドに関する調査をより積極的に行うために申請したものである。

2. 研究の目的

本研究では、京都における歴史学の歩みをその誕生から体系的にふりかえり、その社会に果たしてきた役割を明らかにする。その中で、戦後70年を経過した視点から戦後歴史学の到達点を検証し、公共空間における歴史叙述の可能性についても検討したい。その際、これまで学問的な成果として十分な検討の対象とならなかった自治体史や地域資料館などの展示や出版物、スタッフによる研究成果などまでも検討の対象とし、歴史学に対する社会全体の取り組みを評価する視点を提案できるようにしたい。また、近年進展しつつある史学史研究に対しても、ひとつの地域に即してその歩みを検証し、地域社会との関わりについても明らかにしたいと考える。

その際、研究の対象は京都市における歴史研究を中心とするが、歴史的に異なる成り立ちを持つ都市や、農村部など多様な地域を比較するために、近隣の自治体や特徴のある活動を行っている自治体まで視野に入れることにする。

3. 研究の方法

本研究ではまず、『京都における歴史学の誕生』の「序章」において提示した方法をもとに、同書では取り組みきれなかった対象を継続して調査・研究することにする。その際、これまで自治体史や地域資料館に関わってきた歴史研究者、行政担当者、学芸員などに関連する史料の収集や聞き取りを行うなど、それぞれに即して経緯を検証する。さらに、同書では検討対象にできなかった考古学や史料保存、アーカイブ学、文化財保存、まちづくり活動など、多様な学問分野や行政分野について検討対象とし、そのための史料調査を実施する。その過程で収集した史料の保存や整理、公開のあり方などについても、研究成果の一部として重視し、その経緯と実態を明らかにする。

また、長い研究の歩みがある京都の歴史については、その研究成果が日本の歴史学研究に与えた影響を考慮し、日本の史学史研究への貢献を意識して研究史を検証し、それを踏まえた調査を行うこととする。

その上で、京都市の場合と比較するために、近隣自治体の取り組みや特徴ある実践を行っている自治体を取り上げ、関連史料の調査や聞き取りを行う。地域社会の変化は多様であり、それを受けとめる行政のあり方も多様である。そのあり方を検証することも、本研究の課題である。その多くは文化行政の一部であるが、都市計画行政や社会福祉行政など他の行政分野に関わる面もあるので、そうした観点も柔軟に取り入れ、関連性を検討することにする。

4. 研究成果

研究会は2017年4月から約40回行われ、考古学、思想史、仏教史、教育史、シンクタンク、印刷所、民俗学、史料保存学やアーカイブ学などさまざまな立場からの協力を得ることができた。その間、京都市歴史資料館、元興寺文化財研究所、向日市文化資料館、尼崎市立地域研究史料館、京都市右京区役所京北出張所、堺市博物館などといった関係機関や史料保存利用機関で調査を行い、奈良市や尼崎市、長岡京市、右京区京北などではフィールドワークを実施することができ

た。また、自治体史の関係者だった上田正昭氏や新村出氏に関しては家蔵史料の調査を行い、桂島宣弘氏、中津川敬朗氏、木坂順一郎氏、疋田正博氏などの聞き取りを行った。こうした研究の成果を受け、2019年10月に行われた地方史研究協議会京都大会の開催と論集『京都という地域文化』の刊行に協力した。

また、2019年2月に行われた佐野方郁氏による研究報告で南山城地域の自治体史の見取り図が示されてからは、同地域に集中して研究会や史料調査を行うことにした。それによって行われたのは、相楽郡精華町、長岡京市、木津川市、八幡市、宇治市、向日市などに関する研究会である。これらの成果は、次の研究課題にも受け継がれるものと考えている。

最後に、『京都大学大学文書館研究紀要』第18号～第20号、『社会科学』第51巻第1号～第4号、『京田辺市史』資料編第3巻などに本研究の研究成果の一部を公表することができたことを付記しておく。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 小林丈広	4. 巻 第8号
2. 論文標題 近代都市と「衛生自治」「貧民部落」をめぐって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 都市史研究	6. 最初と最後の頁 65～75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林丈広	4. 巻 第412号
2. 論文標題 コロナ禍の日々 二〇二〇年八月頃までを振り返って	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 地方史研究	6. 最初と最後の頁 48～53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林丈広	4. 巻 75号
2. 論文標題 創立期日本史研究会の入会者をめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 文化史学	6. 最初と最後の頁 137-159
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林丈広	4. 巻 401号
2. 論文標題 地域史を目指して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地方史研究	6. 最初と最後の頁 48-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐野方郁	4. 巻 45
2. 論文標題 明治期の仏骨奉迎	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本語・日本文化	6. 最初と最後の頁 1～44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前田一郎	4. 巻 48-2
2. 論文標題 徳重浅吉と京都	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 社会科学	6. 最初と最後の頁 27～53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林丈広	4. 巻 678
2. 論文標題 京都における地域史研究の課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本史研究	6. 最初と最後の頁 42～60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林丈広	4. 巻 67
2. 論文標題 平塚飄斎小論	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 文化学年報	6. 最初と最後の頁 89-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 小林丈広
2. 発表標題 近代都市と「衛生自治」 「貧民部落」をめぐって
3. 学会等名 都市史学会大会シンポジウム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小林丈広
2. 発表標題 京都における地域史研究の課題
3. 学会等名 日本史研究会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 前田一郎
2. 発表標題 明治仏教史 その史学史的試論
3. 学会等名 同志社大学人文科学研究所第10研究研究例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 竹村佳子
2. 発表標題 日本の近代視聴覚障害児教育創始についての一考
3. 学会等名 同志社大学人文科学研究所第10研究研究例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 入山洋子
2. 発表標題 西田直二郎に関する一次史料を読む
3. 学会等名 同志社大学人文科学研究所第10研究研究例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小田竜哉
2. 発表標題 現場と公共性 をどう論じるか 本研究会の回顧と展望
3. 学会等名 同志社大学人文科学研究所第10研究研究例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐野方郁
2. 発表標題 戦後京都府下山城地域の自治体史編さんの事業の環境 その担い手と事業内容の分析を中心に
3. 学会等名 同志社大学人文科学研究所第10研究研究例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小林丈広
2. 発表標題 歴史学と現代社会 今村家文書研究の試み 2017年5月27日
3. 学会等名 世界人権問題研究センター近現代・現状班研究例会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 京田辺市史編さん委員会	4. 発行年 2023年
2. 出版社 京田辺市	5. 総ページ数 339
3. 書名 京田辺市史資料編第3巻近代・現代資料	

1. 著者名 奈良県立大学ユーラシア研究センター編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 京阪奈情報教育出版	5. 総ページ数 386
3. 書名 谷三山 師の師たる人	

1. 著者名 地方史研究協議会編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 雄山閣	5. 総ページ数 269
3. 書名 京都という地域文化	

1. 著者名 小林丈広・村上忠喜・田中喜代	4. 発行年 2019年
2. 出版社 三人社	5. 総ページ数 186
3. 書名 緑紅叢書・復刻版・別冊	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------